



学校だより

伸びゆく子

令和4年11月30日
横浜市立中沢小学校
12月 号

『天空の城』

副校長 正木 俊行

副校長になって、担任とは違って、一步離れた立場で子どもたちを見ていると、自分の息子、娘が小学生だった頃の事をよく思い出します。我が家の場合、低学年のころ休日に親子でよく近くの公園に遊びに行ったのに、中学年になると交友関係も広がり、友達同士で遊びに行ってしまうようになり、高学年になると学校での様子もあまり話さなくなり、中学生になると、親との会話を煙たがるようになり……。といった感じて成長していきました。

そんな我が家のエピソードを一つ、会話形式でご紹介します。名付けて……「天空の城」です。

息子：ねえ、お父さん。俺ね。今、基地つくるのにはまってんだ。もう7個もつくったんだよ。今度お父さんに見せてあげるよ。正木：そんなにつくったのか？ すげ～な。じゃあ、今度の休みに見せてくれよ。

息子：いいよ。 数日後……

息子：この上に基地つくったんだ。ここを登っていくんだよ。正木：……！（何と7～8mの高さの急な擁壁の上から垂れ下がっている蔓を伝って登っていくというのです。）そこは、登っちゃだめだ！ 落ちたら、死ぬぞ！ お前は、でかいんだから、（4年生で150cmありました。）そんな蔓切れちゃうぞ。絶対にダメ！ その後、息子は、決して私に基地の場所を教えようとはしませんでした。数日後……。

正木：まだ、基地つくってんのか？ 危ないところにはつくるなよ。今度はどこにつくっているんだ？

息子：教えない。正木：どうして？ 息子：個人情報だから。正木：どうして基地の場所が個人情報なんだ！

自分で危険予測ができない息子だったので、とても心配でしたが、こんな経験を重ねていくうちに、子どもは親離れしていくのかなとも感じました。振り返ると小学生の無邪気なかわいらしさは、一瞬のうちに過ぎ去っていきます。お子さんとのコミュニケーションを十分楽しんでください。でも、当然のことですが、子どもの発達段階に合わせて、コミュニケーションの取り方を大人が変えていかなければなりません。そして、子どもは、自然と成長していくのに、大人は努力しなければ成長していけません。私は、わが子の心の成長に合わせて親として成長することができたか、現在の子どもたちの様子を見ると、実はあまり自信がありません。そんな未熟な親である私が、自分の子育てを反省させられたある父親の言葉を紹介いたします。

ネットのある記事にイギリスのリチャード・プリングルさんという息子さんを突然の病気で亡くした方のSNSが取り上げられていました。リチャードさんは「息子の悲劇から学んだことを世の中の親にも伝えたい」と10のメッセージをSNSに投稿したそうです。心打たれるその内容の一部をご紹介します。

2. 子どものための時間を作ってください。今していることを止めて、ほんの数分でも子どもと遊んであげてください。子どもに「遊んで」と言われた時、つい「ちょっと待って」と言ってしまうという人も多いでしょう。私たちは子どもと遊ぶことよりも他に重要なことがあると思いがちですが、子どもとかけがえのない時間を過ごすこと以上に重要なことなど何もありません。

4. 子どもにお金を費やすのではなく、時間を一緒に費やしてください。どんなことをするか、その内容は何だって構いません。散歩をしたり一緒に水たまりをジャンプしたり、海で泳いだりキャンプをしたり、とにかく一緒に楽しんであげてください。それが、子どもたちがいつも望んでいることなのです。私は息子に買った物をあまり覚えていません。覚えているのは息子と一緒に何をしたかということです。

6. ささやかな時間を大切にしてください。寝る前や本を読んであげている時、一緒にご飯を食べている時、のんびり過ごしている日曜日など、私はそうした息子とのささやかな時間が一番恋しいです。

8. つまらないことを楽しみに変えましょう。買い物に行く時も車に乗る時もお店まで一緒に歩く時も、子どもとジョークを言い合ったりして笑って過ごしましょう。人生は短いものです。子どもと一緒に楽しまないなんてもったいないことです。

10. 子どもと一緒に暮らしている親御さんへ。どうか子どもが寝る前におやすみのキスをしてあげてください。一緒に朝ご飯を食べて学校まで一緒に行きあげてください。子どもが大学に行く時や結婚する時もどうか温かく見守ってやってください。それができるということはとても恵まれているということなのです。そしてあなたはその一瞬、一瞬を決して忘れることはないでしょう。（10.は日本の現状や文化と違う面もありますが……。）

早いもので、今年もあと残すところ1か月となりました。お子さんの様子は、いかがでしょうか？ クラスのことや友達のことを家で話しますか？ 保護者の方々からお子さんの様子を見て、何か気になることがありましたら、連絡帳でもお電話でも結構ですので、早めにお知らせください。